

令和２年度 第１回岐阜県環境審議会企画政策部会 議事録

日 時	令和２年７月２１日（火） １０：００～１２：００
場 所	岐阜県水産会館 大会議室
出席者	<p><委員> １５名（欠席委員 ６名） 広瀬委員、伊藤委員、大場委員、加藤委員、國島委員、佐治木委員、田内委員、田中委員、デュアー委員、中村委員、廣中委員、別宮委員、山崎委員、新藤委員（代理：片桐環境・リサイクル課長）、秀田委員</p> <p><県（事務局）> ５名 青竹環境生活部次長、岩田環境企画課長、木村環境企画課課長補佐兼係長、井戸廃棄物対策課長、居波環境管理課長</p>

会議の概要

1 開会

2 環境生活部次長あいさつ

- ・本日はご多用の中、ご出席を賜り御礼申し上げます。
- ・本日の議事では、３月に知事から諮問させていただいた、新たな岐阜県環境基本計画の策定についてご審議いただきたい。
- ・これまでに、県民や団体、企業への意識調査を行い、３月の全体審議会では委員の皆様から、次期計画においてSDGsの概念を取り入れていくこと、持続可能な社会の構築に向けて県民の環境への意識を実行に移すこと、それらを支える人づくりが必要といったご意見を賜ったところ。
- ・この議論の内容を踏まえ、基本理念、基本方針を盛り込んだ次期計画の骨子案のたたき台をご用意し、基本方針に基づく課題についても整理したため、委員の皆様方からはそれぞれの経験と立場から忌憚のないご意見、ご審議を賜りたい。

3 議事

(1) 新たな岐阜県環境基本計画の骨子案（たたき台）について

事務局（環境企画課）から骨子案（たたき台）の内容について説明を行った。
 また、以下のとおり発言があった。

（佐治木会長）

- ・事務局から、新たな環境基本計画の骨子案をたたき台として示していただいた。
- ・施策の柱立て、目指すべき姿、重点的に取り組むべき分野やその手法、それから地域循環共生圏の創造という、難しすぎる、固い言葉もあるが、これらをできるだけ柔らかく、分かりやすく伝えるためにはどうしたらいいかということも含めて、委員の皆様から忌憚のないご意見或いはご質問を頂戴したい。

（秀田委員）

- ・「基本理念」や「基本目標」というのは、いわゆる「ビジョン（目指す姿）」の部分にあたるのではないかと思う。
- ・前回の会議の時に、「ビジョン」とこれを実現するための「ロードマップ（手順）」をできるだけ具体化し、それを県民の皆さんと共有することが大切だと申し上げた。
- ・「基本目標」の部分例えば「地域循環共生圏の創造」とするならば、「地域循環共生圏が創造されている状態」とはどういう「状態」を指すのか可能な限り具体的に示して、読んだ人が皆同じ将来像を想像できるようなものとするべき。

- ・「ビジョン」即ち「目指す姿」と、それを実現するための「手順・施策」を混載してしまうと分かりにくくなってしまいますので、そこを明確に分けて記載する必要があります。「基本目標」のところは、ビジョンであるため、「こういう状態にしていきたい」という「状態」を表す記載にすべきである。
- ・「地域の特性を強みとして発揮」、「エネルギーや地産地消など資源が循環する仕組みを構築」、「コロナ後のライフスタイルの転換を踏まえた自立・分散型の社会を構築」とあるが、これらは、例示を挙げながらでも、どういう「状態」を指しているのかということを具体的に書かないと読み手とイメージを共有することができない。
- ・「市町村や地域団体の活動を支援」は、「ビジョン」と言うよりは、「ビジョン」を実現するための施策にあたるものではないか。より望ましい「状態」を作っていくために、市町村や地域団体の活動を支援するという事は「手段」であるので、「目標」である「ビジョン」とは異質のものである。
- ・「基本方針」以下は、「ビジョン」を実現するために具体的にどう施策を進めていくかという部分で5項目を挙げてあるが、「ビジョン」をブレイクダウンした形で、それぞれの施策の目標設定をするということが必要になってくる。
- ・「目標指標」という欄があるが、単なる数字だけではなく、それぞれの分野で「ミニビジョン」のようなものを出して、できるだけ文字で書いていくことも、理解しやすくするためには、必要ではないか。

(佐治木会長)

- ・ビジョンと施策、状態にするというところを、具体的に示していくべきとのこと。
- ・「地域循環共生圏の創造」というところで、私なりに考えた言葉は「未来に渡り永遠に続く環境負荷の低減を目指した協力的な循環型社会の形成」、いわゆる教員的な考え方の難しい言葉になるが、噛み砕いていくと、秀田委員のお話の中でもあったように、皆さんが具現化すべき状態を理解できるようにするということが非常に重要であると強く感じる。

(岩田環境企画課長)

- ・地域循環共生圏という言葉自体、委員の皆様にも初めてご説明させていただくということで、この考え方にご賛同いただければ、基本方針との繋がりが分かる具体的な例示を、次の審議会のときにはお示しできればと考えている。
- ・支援については、どちらかと言えばツールのものであるとのことをご意見をいただいたので、こちらについては精査していく。

(デュアー委員)

- ・目標指標のところだが、SDGsというところを概念として入れているが、例えば毎年国別のSDGsのランキング評価が出されているので、その全てが環境に関するゴールではないものの、今回の基本方針の中に入っている項目についても評価を出す、目標値を出すということができるのではないか。

(佐治木会長)

- ・SDGsのロゴは、薬学の世界でも製薬メーカーなどが自分たちの会社の目標などを示す際に使用している。ただし、誤った内容で理解している場合もあるため、代表的なところをまとめていき、浸透させていくということが非常に重要なポイントとなる。

(岩田環境企画課長)

- ・SDGsの考え方は、岐阜県の施策全体で実施していくということで、環境についてもどのように評価できるのかという部分で、ご意見いただき、達成できればと考えている。

(山崎委員)

- ・私は高山市在住で、災害の真っ只中で災害復旧支援にも出向いたが、「自然災害に強い県土の保全管理」について、地域限定ではないが、この地域はこのようなビジョンで行動すると結果としてこうなるということを示すと、ピフオーアフターで分かりやすくなる。
- ・廃棄・リサイクル部会でも申し上げたが、岐阜県の人口が今年に入ってから毎月1,000人ずつ減っており、人口が減っていく中で数値を少なくしていくという話はクリアできてしまうが、そういう問題ではないと思う。
- ・課題や問題という言葉自体は、ネガティブに考えていくように思うが、ポジティブに考えていくと、自然環境を享受できるとか、今までの先人の知恵も色々あって岐阜県はうまくできているといった、ポジティブな表現も良いのではないか。

(佐治木会長)

- ・50年に1度の災害が毎年のようにやってきて、地区ごとに被害が多い。それをいかに施策の中に組み込んでいって、具体的に状態をこうしていきたいということを出すことが、なかなか難しいが非常に重要なポイントではないかと考えている。
- ・全員がコロナの真っ只中にいるところに、今回の豪雨もあり、災害と環境というものは紙一重のところでは繋がっているという点も盛り込んでいく必要がある。
- ・環境基本計画は5年タームで今回は第6次となるが、第7次、第8次、第9次と繋がっていかねば全く意味のないことになってしまうため、5年間でここまで、次の5年間でここまでといった長期的な目標を立てるということを組み込んでいくことも重要であると感じた。

(岩田環境企画課長)

- ・昨今の想定外の状態になっているところは、非常に身に染みて感じている。
- ・防災も大事だが、被災した後の復興なども考えていければということで、こちらは後程ご議論いただければと思う。
- ・ポジティブにといった話もあったが、地域循環共生圏の考え方自体、地域にある可能性を皆さんが拾い出して、洗い出して、それを磨いていくことが大切になっていくので、この取組みを進めていくことで人口減少の社会や地域をどのように元気にさせていくか、どういう状態に持っていかかということを書き込んでいく。

(佐治木会長)

- ・「地域循環共生圏の創造」について、できるだけ平易にわかりやすく伝えていきたい。
- ・「状態」という言葉が非常に重要でキーワードになってくると思うが、未来永劫に環境を保持していかなければならない。矛盾しているが、人間が社会で生きていくということは、環境に対して負荷をかけながら生きていくということに繋がりが、それを踏まえて、いかに環境負荷を減らしていくかということに関わってくるので、未来永劫に渡って環境負荷を低減していくという意識を、全県民が持つということを目指していかなければならない。
- ・地域ごとで特徴があるため、それぞれの地域ごとの特徴を生かして、環境負荷の低減を目指した施策を行いながら、お互いに連携をして協力をしていく社会を形成できれば、岐阜県全体として「共生圏」に結びつくのではないかと。

(山崎委員)

- ・地域循環共生圏のイメージ図が、お互いのサイクルのように描いてあるが、基本的には動脈と静脈のように、動脈は人間の行動で、静脈の方は自然が元に戻してくれるという自浄作用というイメージの絵も必要だと思う。

(佐治木会長)

- ・岐阜県は海拔ゼロメートル地帯から3000メートル地帯まで自然の様々な部分があり、副読本を作っている時も同じような指摘が出て盛り上がったが、そういった特性を生かしながら、協調し合うことが非常に重要なポイントで、それを今回の第6次だけでなく、第7次、第8次と続いていく中で盛り込んでいくべきところではないかと。

(広瀬委員)

- ・今回、岐阜県がSDGsに関して国から認定を受けたと理解している。
- ・今までは、岐阜県庁内でSDGsの17項目のうち、幾つかの部分だけをやっていたということもあるかもしれないが、岐阜県が国からの認定を受けたということは、ある程度の方向性を示した上で認定を取っているはずなので、基本計画を基に環境も含めた下にある施策に繋がっていくこととの整合性がとれているかも、見直すべきではないかと。
- ・地域という言葉がよく出てくるが、県内は5圏域や各市町村圏域など、地域という言い方も色々ある。表現の仕方も考えながら、基本計画の中でしっかりと示さないと、行動を起こそうとしてもどう行動したら良いかという部分が分からない。
- ・推進体制のところで、社会情勢や環境の変化等に応じて随時見直しすることは良いと思うが、国の方では、ただ単にSDGsの番号と政策を紐づけるだけでは達成度が分からないということから、数値目標を上げるような話もあるので、もしそれが出たときにこの計画もどうやって対応していくかということも考えながら進めた方が良いでしょう。

(岩田環境企画課長)

- ・岐阜県の「SDGs未来都市」は、SDGsの理念に沿った取組みを推進するという自治体の中から、環境、経済、社会といった側面における新しい価値の創出を通して、持続可能な開発の実現可能性が高い都市ということで、今年度、岐阜県が選定された。

- ・地域循環共生圏の考え方が、まさにその考え方であり、環境、経済、社会、これらをうまく回していく取組みを県として推進していくということで評価をいただいた。
- ・計画については、この考え方も含めて、或いは県全体の考え方との整合性もとりながら、記載していくことを考えている。
- ・見直しをどのように図っていくかということも、政策と整合性をとりながら選択を続けていきたいと考えている。その考え方については、次回の審議会で整理させていただく。

(佐治木会長)

- ・「SDGs 未来都市」の視点についても、次回整理をお願いする。
- ・SDGsという言葉を検索すると、最近ようやく筆頭に出てくるようになったが、基本計画を進めていくにあたって、この基本理念を県民の皆さんにご理解いただけるよう、噛み砕いていく、或いは説明していくことも求められる。

(秀田委員)

- ・それぞれの分野において課題があり、それらを解決するために施策を作っていくということになるわけだが、現状に「ビジョン」にそぐわない部分があると、そこが「課題」として抽出されてくることになる。
- ・これらの「課題」、そして施策検討の出発点となる「ビジョン」の部分、たたき台の「基本目標」の中に具体的に書いていかないと、なかなか「ビジョン」と施策の繋がりが理解されない。
- ・「ビジョン→課題→施策」といった一連のストーリーを描けるようになってないと、読んだ県民の皆さんに伝わらない。
- ・「未来に繋げる人づくりと多様な主体の行動変容の促進について」は、「ビジョン」を実現するために非常に大事なベースとなる部分になる。
- ・「各主体に求める行動」では、例えば学校教育に関しては先生のスキルアップも書かれているが、基礎自治体である市町村から住民への働きかけも非常に大事になってくるため、今後、市町村職員の皆さんのスキルアップ、環境マインドの向上も非常に重要になってくる。
- ・また、事業者について、企業の色々な奉仕活動や社員教育もさることながら、事業活動（本業）が環境に及ぼす影響や事業者の行動が社会に及ぼす影響には大きいものがあるので、事業者が顧客に対して色々なメッセージを発することで、顧客と一体となって環境保全に取り組むということもできるのではないかと。このように、顧客との協力関係を構築して環境保全の裾野を広げるといふことにも、事業者は積極的に取り組んでいくべきだと考えている。
- ・県民一人ひとりが、環境問題を自分事と捉えて行動に移すことが、動き出すスタート地点となるが、県民は頭では分かっているものの、具体的に何をやったら良いか分からないということがアンケート結果でも出ている。県民に対して、「皆さんが具体的にこうすると、それがこうなって、最終的に『ビジョン』で示したこういう『状態』が実現される」ということを、分かりやすく伝えることが必要となるため、ここは重点的に書き込んでいただきたい。

(岩田環境企画課長)

- ・地域循環共生圏も、ある意味では「ローカルSDGs」と言い換えもできるのではないかと。県の取組みも、SDGsの考え方に当てはめていけば、全てどれかに関連付けられるが、それらがどのように繋がっているかが分かりにくい部分もあるため、整理していきたい。
- ・例えば、豊かな自然環境の保全と利用であれば、利用ということが大きなキーワードになってくるが、これらも地域循環共生圏の中で言うところの、地域の特性を強みとして発揮するという部分に繋がってくると思われるため、分かりやすく整理していきたい。

(木村環境企画課長補佐兼係長)

- ・人づくりに関するところで、事業者と顧客との協力関係や、或いは県民一人ひとりが行動に移すという点についても具体的に示しながら、より行動変容を進めていけるよう、次期計画の中には盛り込んでいきたい。

(大場委員)

- ・環境という問題は岐阜県内だけではなく、例えば鳥獣害対策においてのししや鹿が県境を跨いで動き回るようなこともあれば、プラスチックごみも岐阜県から三河湾に流れていくという話もある。岐阜県内でどうするかということを考えざるを得ない部分もあるが、隣県との部分についても少し触れておかないと、内向き思考になってしまうため、検討していただきたい。

(伊藤委員)

- ・各主体に求める行動について、行動に参加する立場に立って考えている部分が見当たらない。

例えば、対応策に家庭の中でできるような企画を行うということが書いてあるが、生協も昔から環境やユニセフなどのイベントや企画をやってきた。しかし、コロナの問題があって、そういった企画が一切できなくなり、組合員活動も全て中止となった。書いてあることは素晴らしいが、実際にこの企画をしたときに参加する人の立場になったことがどこにも明記されていない。

- ・県の目標としては大変素晴らしいことがたくさん書いてあり、環境は少しずつ小さいことの積み重ねが広がっていくことだと思うので良いのだが、コロナの影響により生活様式を一から見直す中で、環境ベースとして見直しを行うことが必要という現状もある。
- ・県民の皆さんは具体的にどうしたら実現できるのかどこにも明記されておらず、自治会なども様々な行事が全て中止となっている中で、例えば学習会をやるということが本当にできるのかということも考えていただきたい。
- ・全体では令和2年までで一つの区切りがつくということだが、ここから先は今までの観点とは全く異なった考え方をしないといけないと思っている。

(岩田環境企画課長)

- ・県境を跨いだ取組みは岐阜県だけの取組みにならないようにとのご指摘ですが、ご意見を受け止めて、例えばプラスチックごみや河川のごみは、上流から下流に流されている部分もあり、岐阜県だけで解決する問題ではないため、県の中でしっかりできること、或いはその隣県との調整、全国的な調整といったところも検討していきたい。
- ・伊藤委員からのご指摘のとおり、事業者の立場、参加者の立場からどうしていけば良いかということは、分かりにくい面があると思うので、これについては工夫していく必要がある。
- ・今回のコロナ、或いは昨今のSDGsも含めて、今までの環境基本計画とも随分状況が変わってきているため、ご意見いただいた内容を積極的に取り入れていきたい。

(國島委員)

- ・伊藤委員から、色々な自治会の催しもなくなってしまったとお聞きしたが、何もできないのでは悔しい。
- ・輪之内町では、毎年、空き缶拾いやごみ拾い、川の清掃などを、住民はもちろん、中学生や企業にも応援を頼み、役場の職員も全員で、多い場合は400人ぐらいが集まって年2回実施している。
- ・中学生にはその都度、温暖化による弊害や対策などについて、環境市民団体の代表者からの説明を受けていただいている。また、私たちの地区ではごみ拾いの後に、ほとんどの住民が参加して、ジャンボタニシ取りをやっており、小さな保育園児の皆さんや、そのお父さんお母さんも参加される。
- ・これらは自治会が催しており、育成会や老人会などありとあらゆるグループを巻き込んで行う一大イベントだが、そのときにも小学生は川の水路や田んぼの縁を歩いてジャンボタニシを取ることや、自然に触れ合ってメダカ、コブナ、ゲンゴロウなどの色々な水生植物・水生動物の観察などを体験している。
- ・次世代の子どもたちに、環境の大切さや、私たちのふるさとであるこの地区は、水が綺麗だからたくさん魚がいて、年に数回だがカワセミも見ることができるので、一生懸命綺麗にするとカワセミも来てくれるということ子どもたちやお母さんたちに話している。
- ・小さな地区から、その規模がだんだん大きくなっていくように、小さな取組みから大きくしていくことが大事ではないか。

(岩田環境企画課長)

- ・身近にも生物の多様性に富んだ自然があるということで、それらを次世代に繋げられるような取組みをしていきたいということを改めて感じた。
- ・そういう意味では、秀田委員もご指摘されたように、環境基本計画は分かりやすさということが1つのキーワードになるため、皆さんが読んで自分たちが何をすべきか、どういうところを目指すべきかといった部分を、誰が読んでも分かるよう、できる限り書き込んでいきたい。

(別宮委員)

- ・通勤通学などの合間でしか時間が取れないことや、逆に学習会が多過ぎると限られた勤務時間の中で聞きに行ってもらう必要があるなど、勉強したいと思っても時間が取れないことも多いため、通勤通学や、自宅にいるときに見られる媒体の活用が必要ではないか。
- ・県の発信ページは、受動的なものが多く、SNSによる発信や、CM、携帯電話などで見ら

れるような何かを発信していくという部分が少ないので、対策をとっていただきたい。

(廣中委員)

- ・SDGsの取組みを推進してく上で、環境ボランティア活動や環境保全の啓発活動などに対して、評価していくような仕組みが重要だと思う。
- ・例えば、「岐阜SDGsポイント」のようなものを創設して、付与されたポイントは岐阜県下の加盟店でポイントとして使えるような仕組みにするなど、分かりやすい評価の軸が必要ではないか。
- ・環境や社会が回っていくことが経済にも接続していき、経済と社会、社会と環境を両輪で回していくような仕組みがSDGsの本質だと思うので、そういった評価の軸が大事ではないか。

(佐治木会長)

- ・具体的に、いかにフィードバックしていくかということも考えるべき点である。

(岩田環境企画課長)

- ・SNSという話題もあったが、行政は情報発信がなかなか苦手な分野で、紙ベースでは比較的良くてデジタル情報は難しい部分もある。
- ・今回、プラットフォームの構築という話を説明したが、色々な情報を集約して、いわゆるポータルサイトのような仕組みを構築できないかという点も検討しており、ご意見をいただいてこの計画に反映できればと考えている。
- ・SDGsのポイントという話もあったが、県民全体で盛り上げていかなければ実現できないため、活動していることがSDGsのどのターゲットに貢献しているかということ、県民の皆さんが常に考えていただけるようになると、大きく前進するのではないかと考えている。
- ・ポイントを導入するということはなかなか難しいかもしれないが、その考え方は非常に大事なので、取り入れていきたいと思う。

(新藤委員代理)

- ・企業の取組みということに関連し、経済産業省で循環経済ビジョン2020というビジョンを5月20日に公表をしている。循環経済政策の基本的な方向を示すということで、経済産業省に設置した研究会において検討を重ね、一つの成果物として公表している。
- ・AIやIoTなどのデジタル技術、或いはシェアリングエコノミーといったことも活発になっているが、そういったものも活用しながら、循環経済を進めていく、いわゆるサーキュラーエコノミーと呼ばれているもののビジョンも公表されているため、参考にしていきたい。
- ・SDGsの取組みは、企業の間では結構広がっており、ESG投資の投資額も増加を続けているほか、サーキュラーエコノミー、循環経済ということで、EUなどは以前から積極的に取組みを行っているという状況にあり、企業によってはそういった動きに敏感になっているところもある。
- ・一般社会の中の環境意識も高まっており、企業の方でもSDGsや環境面を非常に意識し始めているということ、企業訪問や各種報道からも感じているので、この機運や追い風をうまく活用するようなことを盛り込んでいくと良い。

(佐治木会長)

- ・大学では企業と化学の共同研究も行っており、色々な提案をしていく中で、ゴミが出る、化学反応により無駄が出るということで、企業のほうも厳しくなってきたが、これが真の姿ではないかと思う。

(山崎委員)

- ・資料の2-3の目標の達成状況という表に、間伐実施面積、新規林業就業者数、耕作放棄地解消面積、新規就農者数などの数値があり、この数字が大きいのか小さいのか、達成しているのか達成度していないのかということもあるが、まずは魅力が大事ではないか。
- ・NPO法人で間伐作業を毎週行っており、木の駅プロジェクトという全国大会も高山市で開催したが、参加する皆さんは感覚的に非常にポジティブであった。作業を毎週やっても休む人がいない理由は、生活の一部になっており、参加している者のほとんどが60歳以上となっている。色々な活動で、学生などの若い人にも参加してもらいたいと言えば言うほど、形骸化してきている。
- ・過去の先輩たちに習って、我々の代で何をすべきかを毎回語り合っているが、その結果は魅力を感じているかどうかということ。当初、スタッフ3人から始まり、今は登録メンバーが98人で、年齢が高い人ばかりではあったが、魅力を感じただけで1ヶ月くらい前から30代

の人が3人ぐらい入ってくれた。

- ・無農薬の農業もやっているが、今年初めてヘイケボタルが何百匹も群生し、見学者もいっぱいになったが、そういったことも非常に魅力を感じるものである。
- ・環境の話というものは、今の環境でも十分魅力があるというところから始まって、こんな発見もあるということをも具体策として話題にあげた方がよい。

(佐治木会長)

- ・魅力ある状態を示していくということも非常に重要な点である。
- ・次世代の育成や人づくりについて、主な取組みの中に講師派遣などが並んでいるが、それぞれが各論的な形になっているため、これらが一つにまとまっていて、ホームページですぐに講師を選べるようになれば非常にメリットがある。
- ・一方で、例えば荒れた森林を間伐して整備すればどのような環境的メリットがあるのかなど、環境がどのような形であるべきかという一般論の部分が欠乏しているように感じる。
- ・インターネットですぐに見られるようなところに、環境とは何か、我々の目指すべきところは何かということをも、できるだけ平易な内容で、県民のどなたが見ても理解できるような内容で示すとよい。
- ・環境問題が温暖化に繋がっているということは誰もが分かっていることだと思うが、その環境問題の一つ一つは各論で重要な要素を持っているということも含めて、全体像を示すことが重要ではないか。
- ・副読本を小学5年生に配布しているが、内容を加工した全般的なものを、インターネットで誰でもすぐに見られるようにして、勉強や復習に利用することができるという状態にした上で、岐阜県はこういった特徴をもつということから始まり、それぞれの各論に入っていくと全てがリンクしていくと思う。
- ・魅力を伝えることも重要であるとともに、課題を克服するための取組みの方向性について具体性がやや欠落しているため、状態をこうしていく必要があるという目標値を具体的に示していくことも重要である。
- ・温室効果ガスを削減していく場合のグラフは非常にインパクトが強いが、全県民の皆さんが現に活動をしている、例えばごみを削減する努力をする、森林を復活させる努力をするといったことも、全て温室効果ガスの軽減に繋がるということも、分かりやすく伝えることが必要。
- ・浸透させるために、できる限り周知徹底するホームページづくりや発信のスタイルを作っていくことも重要ではないか。
- ・環境省では海洋プラスチックごみ対策をやっているが、特にプラスチックに関しては非常に力を入れているように感じるが、循環という言葉が良く出てくる中で、エネルギー収支はマッチしているのか。それとも、エネルギーを購入していながらも、もう一度リサイクルしていくという方式にしているのか。

(井戸廃棄物対策課長)

- ・エネルギー収支についてどうかということについて、答えの持ち合わせはないが、循環型社会形成推進基本法において、最初にリデュース、次にリユース、次に物質としてのリサイクル、次に焼却によるエネルギー回収、それでも回収しきれない部分については最終処分という、基本的な優先順位が示されているため、それに従った形になる。
- ・プラスチックは、日本で廃棄物となったプラスチックの輸出入関係も考慮し、国全体としての施策が今後定められていく中で、県としても適切なプラスチックの循環資源としての利用について検討していく。

(佐治木会長)

- ・非常に多くのご意見を頂戴し、皆様にご協力いただき感謝申し上げます。
- ・今回の議論を踏まえ、新しい環境基本計画の策定に向けて、事務局で作業を進めていただきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局（環境企画課）から今後のスケジュールについて説明を行った。

(佐治木会長)

- ・以上をもって、予定していた議題は全て終了し、本日の部会を終了する。 <以 上>